胸腔鏡補助下（右・左）肺葉切除術を受けられる患者さんへ（No.1）　　**患者さん用**

患者氏名 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ **様**　　**受持ち医師** ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　　**受持ち看護師** ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

月日 項目	入院～手術前々日 入院　月　日 月　日	手術前日 月　日（　）	手術当日（朝） 月　日（　）	手術当日（帰室後） 月　日（　）	術後1日目 月　日（　）	術後2日目 月　日（　）	術後3日目 月　日（　）	術後4日目 月　日（　）
達成目標	・入院生活に関して理解できる。 ・手術に関して理解ができる。 ・HCU入室時は必要物品が準備できる。		・合併症の症状、所見がない。 ・創痛のコントロールができる。 ・安静を守ることができる。		・ドレーンに問題がない。 ・創部に問題がない。 ・不安の表出ができる。 ・離床ができる。		・創部に問題がない。 ・不安の表出ができる。 ・感染の兆候がない。 ・リハビリに取り組むことができる。	
治療 処置	・ 手術に必要な物品をお預かりします。（HCU入室の場合、別紙をご参照下さい） 	・ 手術部位の除毛 （前胸部　わき　太もも） 必要時行います	・貴金属類は全て除去し 配布した血栓予防の靴下を着用します（着替える前に排尿を済ませて下さい） ・主治医が手術側の肩に印を書きに伺います	・手術側の胸にドレーンが入ります ・背中に鎮痛剤の細い管が入ります ・尿管が入ります ・酸素吸入を行います ・心電図を装着します ・必要に応じて管で痰を取ります ・血栓、梗塞予防の用具を両足に装着します（翌日には除去します）	←この時期に胸のドレーンが抜けます→ ・ガーゼ交換は必要に応じて行います ・吸入を1日3回行います（4日間）			
内服 点滴	・持参された薬の確認を行います	・手持ちのお薬を預かり看護師管理とします	・特殊薬のみ麻酔医の指示で内服します	・持続点滴を行います ・状態を見ながら鎮痛剤を使用します （注射または坐薬） ・背中の管より持続鎮痛剤を使用します	・鎮痛剤を配薬します ・医師の指示にて持参薬を再開します （ドレーンが抜けたら患者さん管理となります）			
呼吸 リハビリ		術前オリエンテーションを行います。 ・呼吸法の指示 ・術後の流れの説明			この時期に呼吸訓練があります（退院時まで）→ ・腹式呼吸訓練 → ・術後１日目起立、歩行訓練 ・術後2日目以降又はドレーン抜去後 院内歩行　自転車エルゴメーター　呼吸体操　階段昇降			
検査	・ 血液、胸部写真 ・検温（1回／1日）		・手術に行く前に検温をします	・胸部写真（手術室） ・検温（夜中もあります）	胸部写真 → ・血液検査　（検査は状態を見て行われます　前日にお知らせします） ・検温（4回／1日） →			
活動 安静度	・フリー		・トイレ、洗面以外はできるだけ お部屋でお休み下さい	・ベッド上安静 手や足は動かせますが起き上がれません	・朝、夕は座位になり洗面を行います 状態を見ながら ・ﾍﾞｯﾄﾞｻｲﾄﾞで起立訓練→病棟内歩行→院内歩行 （医師または看護師と一緒に）			
栄養 食事	・ 普通食または特別食	・食事は夕食まで ・飲水は24時まで	・0時より絶食 ・7時より絶飲水	・絶飲食	・朝　絶食 ・昼　五分粥 ・夕　全粥	・朝より普通食または特別食		
清潔	・入浴可	・除毛後(必要時)に 入浴、洗髪、爪切			・シャワー浴、入浴許可まで毎日、体を拭き着替えをします ・ドレーンが抜けた翌日からシャワー浴ができます			
排泄	・トイレ歩行可	・トイレ歩行可			・排便はﾍﾞｯﾄ上またはﾎﾟｰﾀﾌﾞﾙﾄｲﾚで行います ・状況をみながらトイレ歩行し、尿管を抜きます			
教育 指導 説明	・入院時の病棟内説明　・入院診療計画書説明 ・手術経過表の説明　・禁煙指導　・手術内容説明（主治医）　・手術に必要な物品の確認　・麻酔医の診察、説明　・手術室看護師訪問　・HCU入室時HCU看護師の訪問　・必要書類の確認		・注射、内服後は安静が必要です	・3F家族控えラウンジでお待ちいただき、終了後家族の代表者へ連絡します ・家族の方への手術結果説明	・麻酔医の術後訪問			

九州がんセンター呼吸器腫瘍科　2017年6月作成

胸腔鏡補助下（右・左）肺葉切除術を受けられる患者さんへ（№2）　　患者さん用

患者氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿様　　受持ち医師＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　受持ち看護師＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

月日 項目	術後5日目 月　日（　）	術後6日目 月　日（　）	術後7日目 月　日（　）	術後8日目 月　日（　）	術後9日目 月　日（　）	術後10日目 月　日（　）	術後11日目 月　日（　）	術後12日目～退院 月　日（　）
達成目標	・創部、ドレーン抜去部に異常がない。 ・不安の表出ができる。 ・感染の兆候がない。 ・リハビリに取り組むことができる。			・創部、ドレーン抜去部に異常がない。 ・不安の表出ができる。 ・日常生活と退院後の生活の注意点について理解できる。				
治療 処置			・術創の抜糸	ドレーンを抜いてから1週間後に抜管部の抜糸 （退院後外来で行う場合もあります。創の管理については看護師が説明します） 退院おめでとうございます 				
内服 点滴	・患者さんにあった鎮痛剤の使い方へと徐々に変えていきます							
呼吸 リハビリ	→	→	・術創の抜糸が終えたらリハビリは終了です。（呼吸状態などによっては継続となる場合もありますので、その際はお知らせします）					
検査	・検温（1回／1日）→		・胸部ﾚﾝﾄｹﾞﾝ・採血 （検査は状態を見て行われます　前日にお知らせします）→					
活動 安制度	・院内フリー							
栄養 食事	・普通食または特別食							
清潔	→	→	→	・抜糸した翌日から浴槽につかることができます （入浴時の創の保護について看護師が説明します）				
排泄	・トイレ歩行可							
教育 指導 説明				・退院時指導 ・概算をお知らせします ・次回外来日の説明 				

※診療計画・入院期間については現時点での予定です。何か分からないことがあれば、いつでもお知らせください。

説明者サイン＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　本人・家族への説明　＿＿＿＿年＿＿＿＿月＿＿＿＿日

九州がんセンター呼吸器腫瘍科　2017年6月作成